

インドネシアから看護留学

海老名メデイカルサポートセンターで

海老名メデイカルサポートセンターで現在、インドネシアから2人の看護師候補者が日本の看護師資格を取得するための研修を受けている。

これは看護・介護分野の労働者の受け入れなど日本とインドネシア間で平成19年に両国首脳によって締結された経済連携協定（EPA）に基づき、(社)国際厚生



指導を受ける留学生

事業団を介して同院を管轄する社会医療法人ジャパンメデイカルアライアンス(杉原弘晃理事長)が受け入れたもの。3年間の研修期間内で日本人と同様の看護師資格を取得しなければならぬ。

杉原理事長は受け入れを決めた理由に「国の国際交流事業への貢献」と国による業務の視点の違いなど「職員の刺激」を挙げた。研修生のひとり、デヴィ・スリさん(29歳)は「日本とインドネシアの看護の違いを学びたい」と話している。

国際厚生事業団によると現在、県内で14人が同事業団を通じて来日しているという。